

口腔保健管理法（継続管理）

講 師	中島 真智子 牧 山 俊 美	実施時期 単 位 数	第 3 学年前・後期 2 単位 （30 時間）	実務経験	○
一般目標（GIO）	歯周疾患の継続管理についてセルフプロフェッショナルケアの役割分担を理解し、専門的処置を実施できる。				
授 業 概 要	歯科衛生士が患者に対し、継続的に指導する上で必要な情報収集力・分析力・観察力を身につける。				
学 習 方 法	講義・実習				
成績評価の方法	後期は定期試験をおおよそ70%、残り30%は症例発表、課題、授業態度、出席状況等を総合し評価する。				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 最新「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科衛生士業務として臨床現場で日常的に行う内容です。 対応能力がしっかり身につくよう、真剣な態度で臨み、予習復習を怠らないこと。				
参 考 書	①下野正基(監) 「歯科衛生ケアプロセス」 医歯薬出版 ②日本歯周病学会(編) 「歯科衛生士のための歯周治療ガイドブック」 医歯薬出版				
教員の職務経験 (科目との関連性)	歯科医院に勤務していた経験を元に、口腔保健管理法について講義・実習を行う。				

授業計画

No.	授業項目	到達目標（SB0s）
1 2	小窩裂溝填塞法相互実習	小窩裂溝填塞法の術式を説明できる。 フッ化物歯面塗布法の術式を説明できる。 器材の準備ができる。 感染予防対策ができる。 口腔内観察ができる。 安全な器械操作ができる。 患者への適切な配慮ができる。
3	歯周疾患への対応・エックス線読影	エックス線読影の基本を説明できる。 エックス線より情報を収集する。 エックス線より問題点を具体的に説明できる。 症例より問題点に対する対応法を予測する。 得た情報を記録する。
4 5 9	第2回総合患者実習	第1回総合患者実習の着目部位、その他患者の変化がわかる。 患者に適したプロフェッショナルケアを選択し、実践する。 患者がセルフケアを実践するために、その重要性を理解し指導する。 実際に患者さんを観察し、自分の立てた予想内容を検討する。 第1回総合患者実習時に自分に不足していたことを列記する。 第2回実習で患者さんに対応し自分に不足していたことを列記する。 患者を継続的に管理する意味を考える。
10	業者歯科衛生士による講話	口腔衛生管理について説明できる。 企業における歯科衛生士の業務を理解する。
11 13	総合患者実習症例発表会、評価 (保健指導と合同)	第1, 2回総合患者実習の実施内容を比較する。 実習時の患者の心理を理解する。 継続管理について理解する。 歯科衛生過程を展開することができる。 パワーポイントを使用し症例を発表できる。
14 15	総合学習(セミナー) シャープニングセミナー	シャープニングを正確に実践できる。 スケーラーの形態を理解する。 企業における歯科衛生士の業務を理解する。